**アジサシとカモメ**

**Little tern / *Sternula albifrons* / Ko-ajisashi / コアジサシ**
その名の通り、体長22～28cmの小さなアジサシは、奄美大島の砂浜で、巣作りをコロニーでしていることが初夏に見受けられる。繁殖期には頭部に黒い帽子のような模様ができ、目には黒いマスクを付けているようにみえる。体と尾は白く、翼の上部と背中は薄い灰色である。コアジサシは素早い翼の動きで速く飛び、水面近くでホバリングし、水中の魚を捕らえることができる。また、オスは魚を空中でメスにプレゼントする求愛行動が見られる。日本では絶滅危惧種に指定されている。

**Roseate tern / *Sterna dougallii* / Beni-ajisashi / ベニアジサシ**
ベニアジサシはオーストラリアで越冬後、奄美大島へ繁殖のため夏季に渡り、コロニーを形成し、外敵から卵や幼鳥を守る。体長33～43cmの中型アジサシは、白や淡い灰色の体に黒い頭部が目に付く。長く、細いくちばしは脚と同様に赤く、尾は長く鋭い。ホバリングもでき、水中で獲物をしとめる際は独特の鋭角で飛び込む。獲物の鯵を刺す様子からアジサシと名付けられた。